

平成22年度事業

高齢者への少年少女 ボランティア隊事業



社会福祉法人 中辺路白百合学園

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

平成23年3月25日

関係各位

社会福祉法人中辺路白百合学園

理事長 小笠原圭子

(公印略)

高齢者への少年少女ボランティア隊事業について

拝啓 時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

社会福祉法人中辺路白百合学園は、独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成（地域活動支援事業）の助成を受けて「高齢者への少年少女ボランティア隊事業」を実施いたしました。この事業は、高齢者と交わることで、児童の健全育成を目的に、少年少女ボランティア隊を結成しました。高齢者の介護の仕方を学び、体験学習をしました。また高齢者の心理も勉強し、高齢者とのお話し相手の体験もしました。

お楽しみ会では、高齢者と子どもが一緒に食事をしたり遊んだりしました。さらに子どもたち同士の交流もはかりました。

高齢者にとっては子どもたちとの交流が一番良いリハビリであることを再認識しました。

ご報告をさせていただきますので、ご査収ください。

敬具

【法人の概要】

基本方針

- 家族の人々が安心して我が父そして母を託せる施設でありたい。
- 生きる喜びを満たすため、多様な選択肢のできる生活メニューが用意されるようつとめる。
- 利用者一人々の個の確立
- 家族の面会を多くしてホームの生活ではあるが、そのきずなを心してしっかりともてるように

尊厳を守るために

生活が豊かでなければなりません。物質的に、また精神的に貧しいことは悪いことではありませんが、それは悲しいことなのです。全てのご老人が、「あんなに大事にしてもらえらば、私も入所してみたい」と思っていただけの施設づくりが重要課題です。プライバシーを守り、精神介護を大切にしましょう。そのために、医学的なケアは勿論のこと、親切で心暖かいお世話が毎日提供できるように努力しなければなりません。

高齢者の尊厳を守り、人として心身共により豊かな生活を通して「長生きして良かった」とご満足していただけること（たとえ心身共に重症といえども自らの残す時間を美しくデザインできるように）を私たちは心に秘めて日々励んでまいります

白百合ホーム職員心得

より明るく、さらりと心配りを笑顔とともに

(1) 給食活動の向上

好き嫌いを問う前に、いつの間にか食べてしまっている状況をどのように作り出していくのかを考えなければいけません。そのためには、一人ひとりの高齢者の嗜好状況の把握を、あなたとの会話の中で把握していくように努めていこう。

(2) 家族との面会をもっともっと増やすために

前年度の家族との面会状況を踏まえてその維持を、また、あまり面会のない高齢者の方々のために、あなたと高齢者との日常会話の中で家族との面会の満足度をお察しできるように。

高齢者に寂しい思いをさせないように、また、押しつけにならないように電話あるいはお手紙のお力添えをさせていただくように努めていこう。

(3) 金品（年金を含む）を預からない原則の徹底

金品をお預かりしなくとも高齢者が困らないように、近隣のマーケットで物品購入のご援助ができるように努めていこう。

(4) 高齢者同士の懇談について

高齢者同士の会話を見受けた時は、素早くワゴンサービスの提供がなされるように努めていこう。

(5) テレビについて

全個室にテレビが設置されているが、テレビを1人で1日中見ていることのないように心配りしよう。しかし、個人の動作をむやみに妨げてはならないことも十分注意しよう。

(6) 音楽について

入所者の好きな音楽を日常生活の中で知っておこう。あるいは、カラオケの場面で把握していこう。その歌が高齢者から知らぬ間に口ずさまれるように。終日ベット上の方々の生活に安らぎの演出も大切です。

(7) テレビ・ビデオのレパートリーについて

テレビ・ビデオのレパートリーを多く準備していこう。テレビ・ビデオ劇場のようなコーナーをいつも用意しておこう。

(8) 気ままな外出

無理強いすることなく、気ままな外出にお誘いしていこう。ドライブで季節を感じて頂きましょう。街の喫茶店も気分転換となります。

(※ 職員心得は、開設当時からのものに一部用語を変えて使用しています。)

社会福祉法人中辺路白百合学園の変遷

- (1984年) 昭和59年 9月 社会福祉法人中辺路白百合学園の認可を受ける(初代理事長に小笠原平八郎が就任)
- (1985年) 昭和60年 5月 精神薄弱者更生施設中辺路白百合学園事業を開始する
- (1992年) 平成 4年 7月 特別養護老人ホーム白百合ホーム事業を開始する
- (1992年) 平成 4年11月 老人デイサービス事業を開始する
- (1992年) 平成 4年11月 老人短期入所事業を開始する
- (1999年) 平成11年 2月 中辺路町より在宅介護支援センター事業の委託を受け事業開始する
- (1999年) 平成11年 4月 法改正により知的障害者更生施設中辺路白百合学園に名称変更する
- (2000年) 平成12年 3月 理事長に小笠原圭子が就任する
- (2000年) 平成12年 4月 介護保険制度開始に伴い介護老人福祉施設事業、短期入所生活介護事業、通所介護事業に名称変更する
- (2001年) 平成13年 4月 居宅介護支援事業を開始する
- (2002年) 平成14年 4月 知的障害者短期入所事業を開始する
- (2003年) 平成15年12月 知的障害者地域生活援助事業白百合高原ホームを開始する
- (2006年) 平成18年 4年 介護予防短期入所生活介護事業を開始する
介護予防通所介護事業を開始する
- (2006年) 平成18年10年 日中一時支援事業を開始する
- (2008年) 平成20年 4月 新体系移行により障害者支援施設中辺路白百合学園生活介護事業と施設入所支援事業となる
- (2010年) 平成22年 4月 独立行政法人福祉医療機構福祉医療機構社会福祉振興助成を受けて平成22年度地域活動支援事業
「高齢者への少年少女ボランティア隊事業」を始める

【事業の計画】

子育て支援基金（地方分）

平成22年度助成金交付要望書（抜粋）

独立行政法人福祉医療機構 理事長 殿

下記のとおり、助成金の交付を受けたく関係書類を添えて要望します。

応募日	平成21年10月20日			
応募団体名 (法人格も記載してください)	(フリガナ) シュカイフクシホウジン ナカヘジシラユリガクエン 社会福祉法人 中辺路白百合学園			
代表者	役職名	理事長		
	氏名	(フリガナ) オガサワラ ケイコ 小笠原 圭子		
団体の住所	〒646-1435			
	(フリガナ) ワカヤマケンタナベシナカヘチチョウコカイアザノゾキ74パンチ 和歌山県田辺市中辺路町小皆字覗74番地			
電話番号	0739(64)1484			
FAX	0739(64)1373			
事業名	高齢者への少年少女ボランティア隊事業			
助成金要望額	金2,000千円(※決定金額は金1,926千円)			
テーマ	青少年の非行防止・健全育成事業に関すること			
団体名	社会福祉法人中辺路白百合学園			
設立年月日	法人	昭和59年9月26日	前身団体設立	年 月 日
人員構成	役職員	90人	協力会員数	人
定款の定める 事業内容	(1) 第一種社会福祉事業 障害者支援施設の経営 特別養護老人ホームの経営 (2) 第二種社会福祉事業 (3 ページ中辺路白百合学園の変遷を参照)			

事業計画書（抜粋）

事業名 高齢者への少年少女ボランティア隊事業

事業概要 高齢者と交わることで、児童の健全育成を目的に、少年少女ボランティア隊を結成します。高齢者の介護の仕方を学び、体験学習をします。また高齢者の心理も勉強し、高齢者との話し相手体験をします。

お楽しみ会では、高齢者と子どもと一緒に食事をしたり遊んだりします。さらに地域中辺路在住の子どもたちと町に住む児童との交流もはかり、それぞれの良さを学ぶ機会を提供します。

前年度に比して新たな展開と考えている点

社会福祉法人中辺路白百合学園では、積極的にボランティアや実習を受け入れて地域との交流を図ってきた。また白百合ホームでは、利用者のレクリエーションを実施するなかで、高齢者にとっては子どもたちとの交流が一番良いことを認識した。子どもたちには、楽しみながら共生の意識を育てたい。

期待される効果

- ①参加児童が、職員やボランティアをモデリングし高齢化社会に向け、家庭内の高齢者在宅介護支援者となる。
- ②活動を通し、参加児童が家庭内にとどまらず、近い将来に広く学校や地域社会全体で高齢者を支援する役割を果たすことが期待できる。（実習生を多数受け入れ指導している）
- ③高齢者のリハビリ効果が期待できる。

高齢者への少年少女ボランティア隊事業（実施計画）

1. 高齢者への少年少女ボランティア隊募集の案内

- ① 目的：広く阪神間の家庭に支援センターなどを通じ保護者に知らせる
- ② 方法：チラシを作成し配布（2,000部）

2. 高齢者への少年少女ボランティア隊の実施

1) 高齢者への少年少女ボランティア隊の学習

- ① 目的：子どもたちが高齢者の心理や介護の仕方を学ぶ
- ② 場所：白百合ホーム内介護者教室
- ③ 方法：学識経験者及び施設長と職員からのお勉強

2) 高齢者への少年少女ボランティア隊の実習

- ① 目的：子どもたちが実習を通し、高齢者介護の実情を学ぶ
- ② 場所：白百合ホーム内の居室・食堂・浴室など
- ③ 方法：職員・成人ボランティアと一緒に介護・作業実習

3) 高齢者への少年少女ボランティア隊のお楽しみ会

- ① 目的：子どもたちが高齢者と共に触れ合い楽しむ
- ② 場所：白百合ホーム内食堂
- ③ 方法：食事をしながらお楽しみ会に参加する

行事の予定			
4月	草引き・お花見	10月	お芝居見物
5月	端午の節句	11月	文化祭
6月	ジュースづくり	12月	クリスマス・お餅つき
7月	七夕と素麺流し	1月	一緒に音楽会
8月	納涼夏祭り	2月	節分の豆まき
9月	運動会	3月	おひな祭り

（※スケジュールの都合により実施日・内容に変更があります）

- ④ 対象：広く一般公募をした児童（定員10人）延べ120人、毎月1回

3. 報告書の作成

- ① 事業の成果をまとめ報告書を作成し配布する(300部) 予定
- ② 留意：個人情報の取り扱いに留意する

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業 少年少女ボランティア隊の募集

社会福祉法人中辺路白百合学園（※裏面参照）では、積極的にボランティアや実習を受け入れて地域との交流を図ってきました。また白百合ホームでは、利用者のレクリエーションを実施するなかで、高齢者にとっては子どもたちとの交流が一番良いことを認識しました。そこで、少年少女ボランティア隊事業を実施します。

子どもたちには、楽しみながら共生の意識を育てたいと考えています。高齢者と交わることで、児童の健全育成を目的に、高齢者の介護の仕方を学び、体験学習をします。また高齢者の心理も勉強し、高齢者とのお話し相手体験をします。

お楽しみ会では、高齢者と子どもと一緒に食事をしたり遊んだりします。さらに子どもたち同士の交流もはかる機会を提供します。

【助成区分】 地域活動支援事業

【事業名】 **高齢者への少年少女ボランティア隊事業**

【内 容】 お昼をはさんで3時間、**白百合ホーム**の利用者さんとの交流

実施日（曜）	プログラムの内容（11:00～14:00）
4月25日（日）	おはなし、軽作業、お食事、お花見
5月16日（日）	おはなし、リハビリ、お食事、端午の節句
6月20日（日）	おはなし、軽作業、お食事、梅ジュースづくり
7月25日（日）	おはなし、リハビリ、お食事、七夕まつり
8月22日（日）	おはなし、介護実習、お食事、夏祭り
9月12日（日）	おはなし、リハビリ、お食事、運動会
10月10日（日）	おはなし、介護実習、お食事、お芝居
11月14日（日）	おはなし、リハビリ、お食事、文化祭
12月19日（日）	おはなし、介護実習、お食事、音楽会
1月16日（日）	おはなし、リハビリ、お食事、お餅つき
2月20日（日）	おはなし、介護実習、お食事、節分豆まき
3月13日（日）	おはなし、リハビリ、お食事、おひな祭り

※日程・内容の変更があるかもしれません、確認をお願いします。

【実施場所】 **白百合ホーム**（※裏面参照）

【費用】 無 料

- 【効果】
- ①参加児童が、職員やボランティアをモデリングとし高齢化社会に向け、家庭内の高齢者在宅介護支援者となる。
 - ②活動を通し、参加児童が家庭内にとどまらず、近い将来に広く学校や地域社会全体で高齢者を支援する役割を果たすことが期待できる。（実習生を多数受け入れ指導している）
 - ③高齢者のリハビリ効果が期待できる。

【申し込み】 参加児童名と保護者氏名・電話番号を明記の上お申し込みください

【問い合わせ】 電話0739-64-1484（中辺路白百合学園）
0739-64-1213（白百合ホーム）

社会福祉法人中辺路白百合学園



障害者支援施設 中辺路白百合学園

知的障害者施設入所事業
知的障害者生活介護事業
知的障害者短期入所事業
共同生活援助事業・共同生活介護事業

和歌山県田辺市中辺路町小皆74

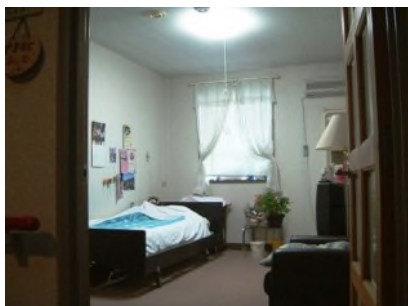
(0739) 64-1484

特別養護老人ホーム 白百合ホーム

介護老人福祉施設事業
短期入所生活介護事業・通所介護事業
在宅介護支援センター事業
居宅介護支援事業

和歌山県田辺市中辺路町川合1800

(0739) 64-1213



(ホームは全館個室です)



(バイキングのごちそうが並びます)



(毎日お風呂があります)

【アクセス】



この事業の少年少女ボランティア隊
参加者には送迎があります

プログラム（例）

- 1) 11:00 各地から送迎車によって白百合ホームに到着
- 2) 11:00~11:10 施設長よりガイダンス
- 3) 11:10~12:00 講師より高齢者についてのお話し
「特別養護老人ホームというところ」
「高齢者の心理」
「リハビリテーションの大切さ」
「はじめての方とのかかわり方」
「ターミナルという出発」など
- 4) 12:00~13:00 高齢者の方とお食事（実習を兼ねる）
- 5) 13:00~13:30 高齢者の方とお楽しみ会（実習を兼ねる）
4月 お花見
5月 端午の節句
6月 梅ジュースづくり
7月 七夕まつり
8月 夏祭り
9月 運動会
10月 お芝居（秋祭り）
11月 文化祭
12月 音楽会
1月 お餅つき
2月 節分豆まき
3月 おひな祭り

（◎実習は、講師が直接指導しました。）

- 6) 13:30~14:00 講師を囲んで感想会
- 7) 14:00 各地に向かって白百合ホームから送迎車出発

※ 学校行事などの都合でボランティア隊希望児童で、予定の日に参加できない児童がいました。その児童のために別の日に実施し、送迎等は助成費によらないでホームで対応しました。

ボランティア隊の延べ人数

	少年少女ボランティア隊	参加人数
①	参加児童	<u>145</u>
②	講師（謝金対象者） 実習前講義・実習指導・反省会（計3時間）	<u>12</u>
③	成人ボランティア（児童と一緒に活動に参加）	<u>49</u>
④	送迎スタッフ兼実習スタッフ（アルバイト）	<u>26</u>
⑤	実習スタッフ 有償ボランティア（アルバイト）	<u>24</u>
⑥	お楽しみ会スタッフ 有償ボランティア（アルバイト）	<u>24</u>

◎感想会から

- ・初めてで緊張した。
- ・草刈りは、しんどかった。
- ・すごく喜んでもらって、嬉しかった。
- ・帰るときに、手を離してくれなかった。
- ・ご飯は、すごくおいしかった。
- ・毎日バイキングをしていると聞いて、びっくりした。
- ・何を話して良いかわからなかったなので、ずっと手をつないでいた。
- ・家に帰ったら、お便りを出したいと思います。
- ・おうちのおばあちゃんにやさしくしてあげたいと思った。
- ・折り紙は、私より上手だった。
- ・また来たいです。

高齢者とのかかわり方（例）

- 1, あいさつしながら近づく
- 2, 顔を見て話す（顔色のチェック）
- 3, 目線の位置に合わせる（座る、ひざまずくなど）
- 4, 直前の出来事を尋ねる（「眠れましたか？」「おいしかったですか？」）
- 5, 季節・日時の話をする（「春ですね」「日曜日ですね」「4月ですね」など）
- 6, 場所の話をする（「この部屋は広く気持ちいいですね」、暖かい、静か、・・・）
- 7, ことわってから手を取る（爪のチェック）
- 8, 手を強く握ってから、上体の姿勢を確保する（姿勢を正す）
- 9, ことわってから手首から上を上げたり下げたりする
- 10, ことわってから指を1本ずつ立てる
- 11, ことわってから膝を交互に上げる（寝ていても差し支えない）
- 12, ことわってから顔に手をあてる
- 13, 声をかけながらくすぐる
- 14, 話しかけながら、頭から順に視線を移し、微笑みかけ、目と目を合わせる
- 15, 高齢者さんからの働きかけには豊かな表情で応える
- 16, 名前を呼び、歌を歌う（テーマソングがあるとよい）
- 17, 両手を取り、動作法の実施（寝ていたら上体を起こす、座っていたら立つ）
- 18, 可能なら歩いてみる（車椅子で移動する）
- 19, 言葉かけをしながら周囲に興味を広げる（「お花が咲いていますよ」）
- 20, 参加する（他の人がしているところに近づく）
- 21, 活動する（ボールを投げてみる、転がしてみる）
- 22, ことわってから元の位置に戻る（「戻られますか？」）
- 23, 両手を取り、動作法の実施（元の姿勢に戻す）
- 24, 次の予定を話す（「もうすぐお食事ですね」）
- 25, ことわってから、席を立つ（「すぐ〇〇が来ます上」「私は△△へ行きます」）

☆ ホームの高齢者さんとは、1人だけでかかわらない。
すべて、指導者と一緒におこなうこと。

少年少女ボランティア隊に関するアンケート 集計表

団体名:	社会福祉法人中辺路白百合学園				
助成事業名:	高齢者への少年少女ボランティア隊事業				
実施日:	平成22年4月から平成23年1月までに10回実施				
助成事業の形態:	①研修会・講習会・養成講座等の開催				
利用者数:	延べ125名		(実利用者数98名)		
回答者数:	98名	回答率:	78.4%	実回答率:	100.0%

《設問1：少年少女ボランティア隊事業の内容全般について、ご満足いただけましたか》

満足	88			
やや満足	10			
やや不満足	0			
不満足	0	計	98	

《設問2：少年少女ボランティア隊事業に参加して、どのような点が良かったですか。(複数回答可)》

役立つ情報が得られた	13		
日頃の活動に役立った	22		
スキルアップにつながった	16		
他の参加者との交流・情報交換が図られた	60		
抱えていた問題・不安の解消につながった	5		
その他	1	計	117

【主な良かった点】

- ・利用者さんの本当に喜んでいる顔が見られたこと

《設問3：今後、このような少年少女ボランティア隊事業を実施する際には、参加したいと思いますか。》

ぜひ参加したい	84		
どちらかと言えば参加したい	14		
あまり参加したくない	0		
参加したくない	0	計	98

《設問4：どのような点が改善されれば参加したいですか。》

該当なし

事業を終えて

【白百合ホーム利用者さんに関すること】



(一人ひとりにいただいたお便りを見る)



(お便りをクリスマスツリーにアレンジしました)

- ・ 少年少女ボランティア隊の訪問と交流は、何よりも利用者さんたちが大いに喜んでくださいました。そして、どの高齢者の方も子どもたちにやさしかったです。
- ・ リハビリの効果は絶大でした。よく動き、話しておられました。
- ・ 普段あまり言葉数の少ない方も、「ウン・ウン」とよくうなずかれていました。
- ・ 後日送っていただいたお便りをうれしそうに何度も見られていました。まるで、実のお孫さんからの便りのようでした。
- ・ 写真を見ながら、利用者さん同士の会話も増えました。

【おうちに帰って】

- ・ 楽しかったようです。帰ってきて、ずっとホームの話をしていました。家のお爺ちゃんも元気ですが、身体の不自由な高齢者と接しさせていただいて良かったです。
- ・ 最初は、緊張したけど皆さんがやさしく、親切だったことを話してくれました。
- ・ 消極的な子でしたが、他の子どもさんとの交流もできたようです。今だけかもしれませんが、少し進んでお手伝いをしてくれます。
- ・ 高齢者についてのお話を聞き、参考になったようです。家にもお婆ちゃんがいるので分かっていたつもりでしたが、少し違っていたようです。
- ・ 高齢化社会になります。今回の事業に参加させていただいて良かったです。この良い経験をこれから生かしてくれたら嬉しいと願います。

事業の成果と残された課題

今回、少年少女ボランティア隊を結成し12回の特別養護老人ホーム白百合ホームの訪問をすることができました。参加児童は、述べ145人となりました。毎回、福祉学識経験者からの講義と高齢者との交流果たすことができました。当日の反省（感想）会での子ども達の意見と後日保護者の方々のコメントをお聞きすることで、子どもたちの健全育成の目的は達成できたと考えています。

加えて、白百合ホームの高齢者と季節行事やイベント・お祭りに参加したり高齢者と子どもと一緒に食事をしたり遊んだりしました。室内遊びでは、折り紙やあやとりなどをしました。テレビゲームやカラオケに遊園地の遊びになれている子どもたちにとって良い経験でした。高齢者にとっては懐かしい遊びを思い出しながら、「ああでもない。こうでもない。」と言いながら昔を思い出しました。子どもたちに教えることで、どんどんお元気になってゆかれることがわかります。

介護度の重い方も健康の許すかぎり、活動できなくても参加していただきました。子どもたちの姿を見て、動きを目で追い、声を聞きました。子どもたちの笑い声に明らかに反応されていることがわかりました。

同じ日の参加児童との交流はありました。しかし、和歌山県田辺市中辺路町地域の子どもと他の地域から参加した子どもたちとの交流も目的としていたのですが、残念ながら学校行事などとの関係で、参加月の偏りがありました。交流が進んだ月とそうでない月がありました。

当初は、同じ児童を選んで何回もボランティア隊に参加してもらう予定でした。しかし、参加の希望者が多かったので広く浅く参加してもらうことにしました。何回も参加してもらうことで、高齢者の心理を深く学んだり、介護技術を高める計画でした。これは、残念ながら十分にはできませんでした。それでも、たとえ1日だけの経験でも子どもたちはしっかりと何かをつかんでくれたのではないかと考えています。

今後も、若い人たちの実習とボランティアを数多く受け入れます。そして、お祭りや音楽会などの地域に根ざしたイベントを実施していく計画です。